

4-(1)-⑮ 社会貢献・連携活動の状況

■ 東北復興支援機構(TRSO)

東北復興支援機構(TRSO)は、東日本大震災後、2011年5月に設立した復興プロジェクトセンターです。本学で教鞭をとるクリエイターの造形ワークショップ、南相馬の子どもたちを山形に招待するアート林間学校、自主避難母子の交流ピクニックや他大学と連携した学生ボランティアバス運行の支援など、被災したコミュニティへの教育リソースの提供を軸に、複数の支援プロジェクトをおこなっています。また、プロジェクトの大半は、当機構の取り組みに賛同した外部企業や団体からの寄付金・助成金により実施しています。

■ 美術館大学センター

学内の研究機関と共同で〈東北〉の風土に根ざした展覧会や、他地域とのネットワーク構築のためのシンポジウムを定期的に企画・開催しています。また、〈芸術によるあらたな地域文化の掘り起こしとその継承〉をテーマに、空洞化しつつある中心市街地や中山間地域でのアーティスト・イン・レジデンス事業を、地域と有機的に連動しながら推進しています。

平成19年度より実施している「ひじおりの灯」プロジェクトでは、温泉文化と創作活動の融合による“現代版・湯治”の創出を目指しています。本学の大学院生や卒業生有志たちが温泉街で逗留制作をおこなった灯籠の点灯が肘折温泉街の夏を飾っています。

また、平成26年度からは隔年事業「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2014」を、山形県郷土館「文翔館」を中心とした山形市内で実施します。平成26年度の開催テーマは〈山をひらく〉。アート、音楽、詩、市民連携プロジェクトなど、ジャンルの垣根を超えたアートプログラムを1ヶ月間にわたって開催します。

■ 社会人講座(生涯学習プログラム)

本学の教授陣が、その専門とする技術や理論に、深みのある文化や情報のエッセンスを加えた社会人向けの講座を開講しています。作品制作(絵画、版画、陶芸、漆芸など)や和太鼓の夜間・週末講座や臨床美術講座、省エネ建築診断士養成講座の資格取得講座など社会人の学びの目的やライフスタイルに合わせた約30講座を展開しています。

■ 全国高等学校デザイン選手権大会(デザセン)

高校生の視点で、社会や暮らしのなかから問題・課題を見つけ、三人1組のチームで解決方法を分かりやすく提案する大会です。企画書での一次審査、提案パネルでの二次審査を行い、入賞10チーム、入選30チームを選出。入賞10チームが本学での決勝大会に出場し、優勝[文部科学大臣賞]以下、準優勝、市民賞などを決定します。第20回目の節目を迎えた平成25年度は、韓国の高校生より2チームが決勝進出を果たすなど、日本のみならず海外においてもデザセンを通じた「デザイン思考」が普及しつつあります。

■ 創造性開発研究センター

「こども芸術大学」プロジェクトで得られた成果をさらに進め、小中高生を対象として、自分の力を創造的に用いて「自ら学び、考え、行動する力」を持つ子どもたちを育てるために必要な芸術思考およびデザイン思考に基づく教育方法を総合的に研究・確立することを目的に平成25年度にセンターを設立しました。

当研究センターでは、平成25年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」をテーマに平成29年度までの5年間のプロジェクトに着手しています。